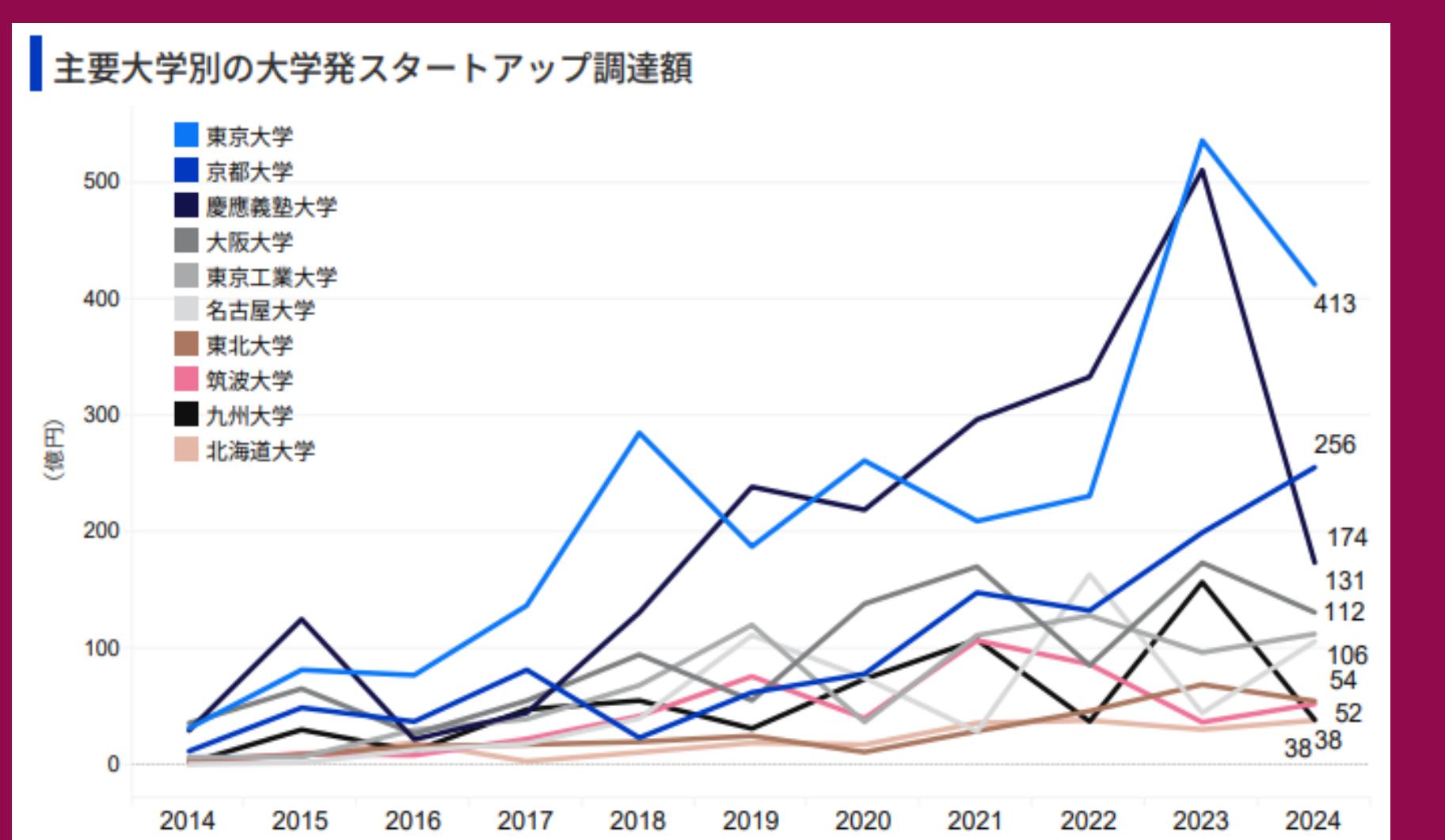


特色・アピールポイント！

- 慶應義塾における2024年度大学発スタートアップの資金調達額は174億円(大学別で3位)*1、
大学発スタートアップ数は3位*2
- 慶應義塾大学病院の臨床研究推進センターはARO機能を活用して学内外の橋渡しシーズの支援を実施。さらに2024年度には医療系スタートアップ支援拠点に採択され、基礎から臨床、実用化までのシームレスな研究開発支援を加速中

*1INITIAL、「Japan Startup Finance 2024」
*2経済産業省、「令和6年度大学発ベンチャー実態等調査」

資金調達額 174億円(3位)



大学発スタートアップ数 377社(3位)

慶應義塾はグローバルで活躍できる世界レベルのスタートアップの創出を推進。強みの一つは医学部の高い研究力(世界的にも有名な、再生医療やマイクロバイオーム、オルガノイド)と大学病院の豊富な診療実績、医学部の起業文化との相乗効果

全国の研究機関への 医療系スタートアップ支援

橋渡し研究機関として406件を支援。企業導出30件、製造販売承認申請4件、医療系スタートアップ支援29社(2024年5月時点)

医療系スタートアップの上場事例
株式会社坪田ラボ (2022年)
株式会社ケイファーマ (2023年)
Heartseed株式会社 (2024年)

1. スタートアップ支援機能の強み・特徴

基礎から臨床、世界に先駆けた社会実装・事業化までの支援

- 臨床研究推進センター(病院) : 橋渡し研究支援機関として学内だけでなく、学外シーズの支援を行う。異分野融合型研究開発支援機関でもあり、医学部だけでなく、理工学部、薬学部、先端生命研究所などからの幅広い研究シーズをもととする医療系スタートアップに対して、ARO機能を用いた研究開発支援、企業連携支援等を行う
- イノベーション推進本部 スタートアップ部門(大学) : 慶應義塾の教育・研究の成果に基づいた教職員・学生等の起業支援および起業後のスタートアップの成長支援を目的に、起業家やスタートアップが必要とする様々な支援策の提供、起業に係わる学内啓発や体制整備、アントレプレナー教育活動支援などを行う。全学レベルの慶應スタートアップインキュベーションプログラム(KSIP)やCRIK信濃町*3の運営、AMED大学発医療系スタートアップ支援プログラムなど大学発スタートアップ・エコシステムの強化支援を行う
- 慶應イノベーション・イニシアティブ(KII) : 慶應義塾のオフィシャルベンチャー・キャピタルとして、2015年に設立。医療健康領域、デジタルテクノロジー領域において、慶應内外のアカデミア等の研究成果を活用したスタートアップへの投資を行っている。これまで68社以上のスタートアップへの投資を行っており、8社がエグジットしている。創業支援、事業戦略構築、コーポレート機能支援、広報・人材採用支援、エグジットに向けた支援、インパクト関連支援等、スタートアップが成長するための幅広いハンズオン支援を提供し、研究成果の社会実装を支援する

CRIK信濃町*3 慶應義塾大学信濃町リサーチ&インキュベーションセンター(略称「CRIK信濃町」) : Center for Research and Incubation, Keio University

- 2024年5月慶應義塾大学信濃町キャンパス2号館9階に新設されたインキュベーション施設
- 「人を真ん中にした医療・ヘルスケアを未来のコモンセンスにする」という目的のもと、同じ志を持った医療・ヘルスケア関係者や幅広い領域のスタートアップ・大手企業が集い共に研究開発を行い、成長する場として開設された
- 広さの異なる賃貸オフィス29室、会員向けの専有デスク26席やコワーキング用ラウンジのほか、3つの会議室やテレカンブース、イベントが開催できるコミュニティスペースを有す。法人登記も可能

2. 支援の紹介

ユニークな支援展開例

- 慶應義塾大学医学部主催 健康医療ベンチャー大賞の開催 : 過去9回で1,000を超えるチームがエントリー、審査会での専門的なフィードバックや、医療者や研究者へのヒアリングの機会も提供される。過去入賞者は慶應医学部との共同研究、資金調達、医療機器承認取得、海外支社設立などを達成
- CRIK信濃町*3 “幅広い領域のスタートアップ・大手企業が集いともに研究開発を行い、成長する場”を病院の中に2024年開設(右写真 : CRIK信濃町)



3. 支援実績

各分野のプロフェッショナル人材を活用した支援

- 臨床研究推進センター(病院) : 橋渡し研究支援により蓄積された研究開発支援やARO機能が充実⇒最適な知財戦略・産学連携・非臨床試験及び臨床試験計画のデザイン・規制当局対応などの支援パッケージを提案、基礎研究の成果を戦略的に臨床試験まで橋渡し、企業連携経験者による支援・助言を行う
- イノベーション推進本部(大学) : 「慶應版EIR(客員起業家)モデル」慶應義塾とビズリーチの連携協定⇒経営プロ人材による早期起業と事業立ち上げ



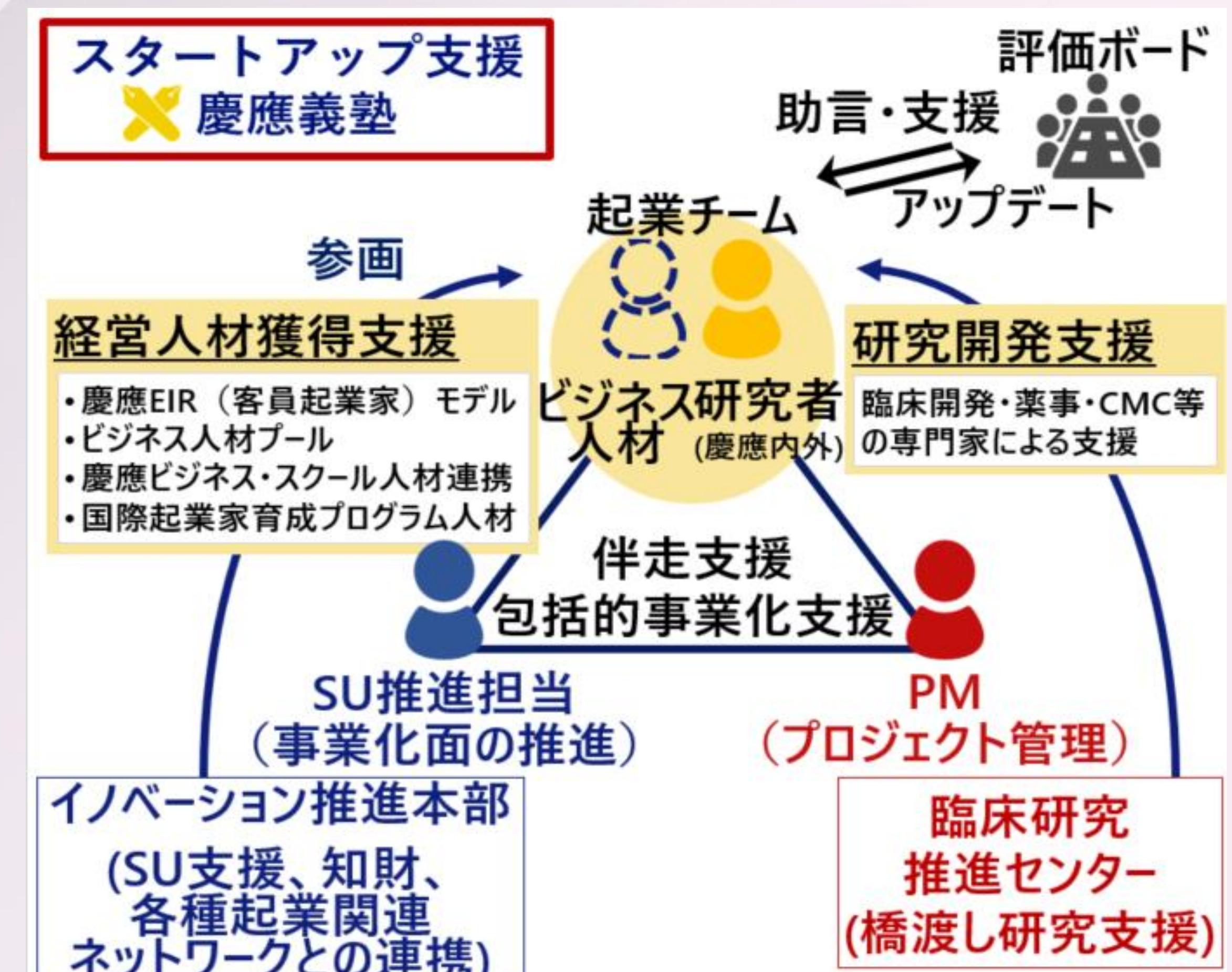
4. 支援の具体的な内容

支援計画 策定

臨床研究推進センターではARO専門家(基礎研究から臨床研究開発に関する支援者が、助言やアクションの提案を行います
また、必要に応じてイノベーション推進本部のスタートアップ部門や、KIIにもおつなぎします

全般的 支援内容

PMDA相談、知財関連相談、プロトコル作成を含む臨床研究開発、企業連携等を支援します
また、大学発医療系スタートアップ支援プログラムにご応募(シーズS0, S1, S2)いただき、選定された課題には、右図のような伴走支援・包括的事業化支援を行います



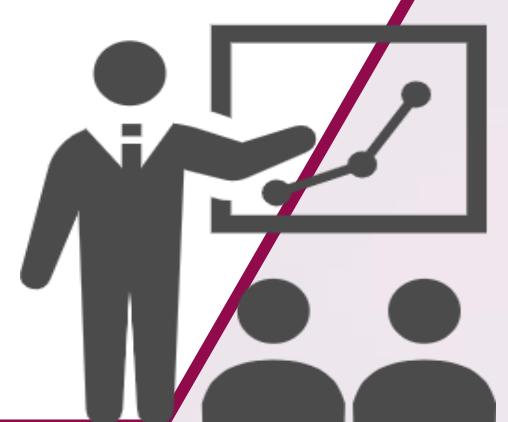
大学発医療 系スタート アップ支援 プログラム 概要

シーズS0(若手育成)

研究費支援/支援期間：
上限2千万円/最長2年

対象：大学等のアカデミア

目標：**事業計画の策定**



シーズS1(起業前)

研究費支援/支援期間：
上限9千万円/最長3年

対象：大学等のアカデミア

目標：民間からの資金調達
についてVC、CVC、事業会社等と対話を実施した上で
起業



シーズS2(起業直後)

研究費支援/支援期間：
上限3億円/最長2年

対象：スタートアップ企業

目標：支援終了時までに
自走可能な民間資金の獲得



5. 支援実績例

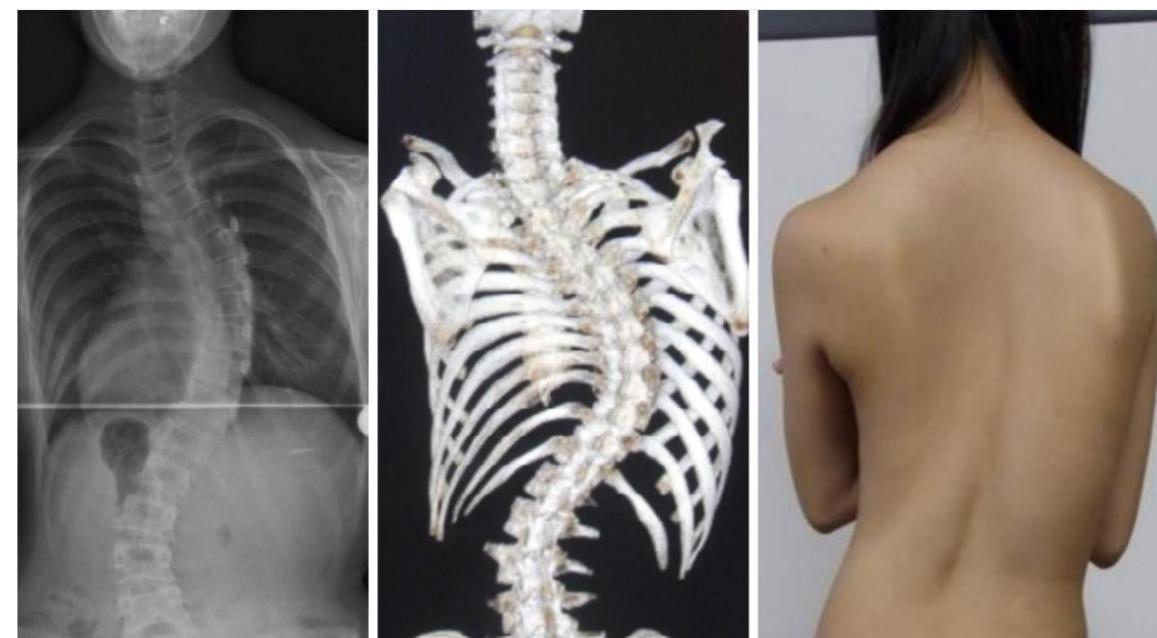
株式会社SMILE CURVE

SMILE CURVE

- 側わん症の早期発見を可能とする検査システムの構築および国際展開を目指す
- 令和6年度AMED公募「橋渡し研究プログラム(慶應義塾拠点・シーズS2)」に採択
- NEDO NEP 躍進コース2023で、試作機開発済
- 創業2期目(設立2023年8月)

【側わん症とは】

- 背骨の捻じれを伴う変形
- 10~16歳、女児 2~3%**に特発
- 疼痛、呼吸障害、姿勢への劣等感
- 重症：手術は、高額で侵襲性が高い
- 軽症：装具で、重症化の抑制が可能
(手術回避率は、75%以上)
- 骨成熟前(思春期)での発見が必要



【課題】

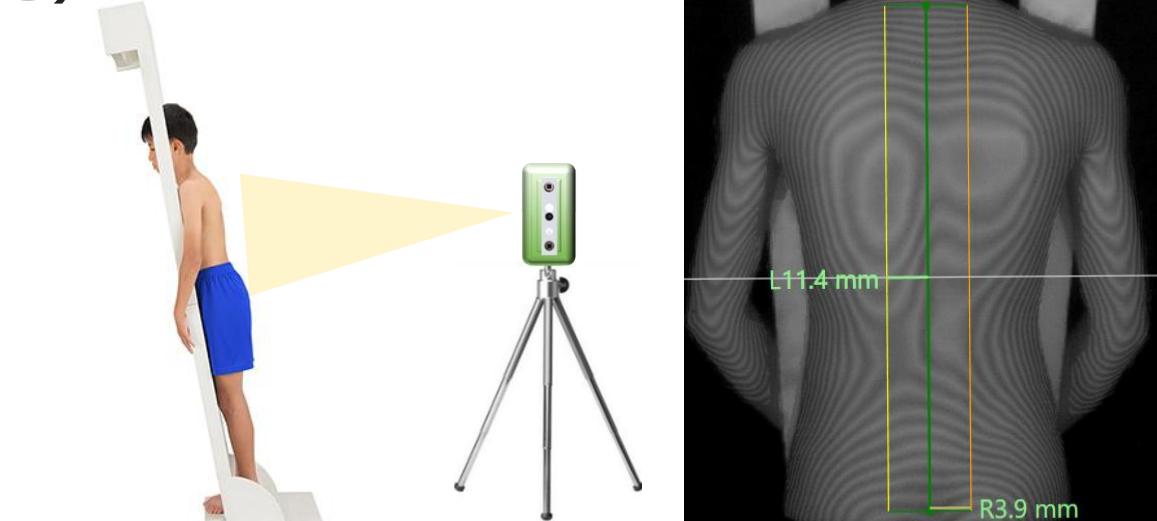
世界20カ国以上で、検診が実施されている
しかしその方法は、

視触診で、課題が多い (精度、プライバシーなど)

【我々のソリューション】

「デジタル側わん症検診」

日本独自のモアレ法 x 3Dスキャナ X AI
強みは、精度、簡便さ、プライバシーへの配慮
2025年度医療機器として上市を目指す



株式会社グレースイメージング **Grace imaging**



- 世界初の汗から連続的即時に乳酸濃度変化を計測可能なウェアラブルセンサを開発
- 心臓リハビリテーション、スポーツ領域での運動負荷指標としての展開を予定
- AMED、東京都先端医療機器アクセラレーションプロジェクト等多数の公的支援及びEquity Finance実施済



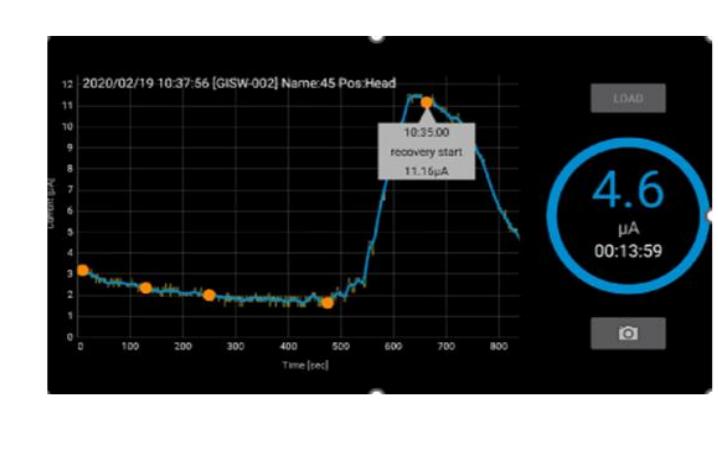
Sweat sensing

汗中の「乳酸」を計測できるセンシング技術



Wearable

身体の様々な部位に装着できるコンパクトサイズ



Real-time

運動中のデータをリアルタイムに確認可能



CPX検査で使用する従来の呼気ガス分析装置検査



- 慶大病院にて医師主導治験を実施し有効性安全性を確認済
(LacS-001; jRCT2032220057)

【お問い合わせ先】

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

問い合わせフォーム: <https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/forms/015.html>

☎: 03-5363-3474 (臨床研究推進センター トランスレーショナルリサーチ部門)

